



**2024 AUTOBACS SUPER GT**  
**Round 1 OKAYAMA GT 300km RACE**  
 APR. 13 - 14 Qualify : DNQ / Race : 19th

## 開幕戦はまさかのエンジントラブルが最後まで影響



2024年、SUPER GTへの参戦を決めたD'station Racingにとって、待ちに待った開幕戦がやってきた。舞台は岡山国際サーキット。タイトで毎年のように波乱が起きるコースだが、D'station Racingはそんな開幕のデビュー戦に向けて、これまでオフの特別スポーツ走行や公式テストを使って、しっかりと準備を整えてきた。

今季、D'station Vantage GT3のステアリングを握るのはチームのマネージングディレクターでもある藤井誠暢、そしてアストンマーティンのワークスドライバーであるマルコ・ソーレンセン。3月にこの岡山で行われた公式テストでも好感触を得ており、ふたりは自信をもって4月13日(土)の予選日に臨んだ。

例年、岡山での開幕戦は厳しい冷え込みになることも多かったが、迎えた予選日の岡山は快晴に恵まれ、気温はグングン上昇。午前9時30分から行われた公式練習は、気温20℃/路面温度26℃という初夏の陽気のなか始まった。D'station Vantage GT3は藤井がステアリングを握りコースインし、午後の公式予選に向けたセットアップを行っていくが、藤井は6周目に1分27秒267というベストタイムを記録しアウト～インを繰り返していきものの、ヴァンテージ AMR GT3にやや重さを感じていた。チームは21周を走った後、

ピットで確認を行ったが、なんとエンジンに不調を抱えており、載せ替えが必要となるトラブルであることが判明した。

ヴァンテージ AMR GT3はこれまで長年D'station Racingが使用しているマシンだが、エンジントラブルはあまり起きたことがなかった。しかも、前日までまだスベアエンジンが日本にはなかった状況。ただ幸運にも、待ち望んだスベアエンジンは4月12日(金)に日本に到着していた。本来SUPER GTに使用する予定のものではなかったが、急速チームは岡山へエンジンを輸送。午後の公式予選を走ることができなかったが、チームは夕刻に着いたエンジンをD'station Vantage GT3に搭載し、決勝レースに備えることになった。

ただ、規定により今シーズンのSUPER GTでは、予選に出走できなかった場合はピットスタートを強いられる。必然的に最後尾からの追い上げとなるが、一方でD'station Vantage GT3の場合、フレッシュなタイヤで追い上げられる可能性もあった。最後尾スタートであることから、チームは通常のレースではできないトライを行うことを決断した。GT300の上位チームが勝ち抜くためにしばしば採用する、タイヤ無交換作戦に挑戦することにしたのだ。これがうまくいけば、今後のシーズンに向けても貴重なデータを得ることが

できるが、GT3車両ではあまり採用しない諸刃の剣とも言える作戦でもある。

4月14日(日)、午後1時30分から迎えた決勝レース。藤井がスタートドライバーを務めたD'station Vantage GT3は、ピットレーンからスタートを切った。1周目、GT300車両のグラベルストップやGT500車両のアクシデントがあったことからセーフティカーランとなり、労せずして集団の最後尾につくことに成功する。

ただ、その後は硬めのタイヤのグリップが思うように発揮されず、14周目に#50 RC Fをかわすなどオーバーテイクをみせたものの、藤井をもってしても急速なポジションアップ……というわけにいかない。粘りの走りをみせ31周目にピットインし、タイヤを替えず、今週初めてのドライブとなったソーレンセンに交代し、16番手まで追いつけたが、終盤アクシデントが襲った。

無交換作戦を採った影響か、D'station Vantage GT3は70周目にタイヤバーストに見舞われ、緊急ピットインを強いられた。その後ファイナルラップに自己ベストを記録し追いつげるも、結果は19位と。エンジントラブルが尾を引く結果となってしまったが、その分挑戦したことで得られたことも多い。その好材料を、次戦富士でのレースに繋げていく。



## COMMENTS :



### Team Owner : Satoshi HOSHINO

4年ぶりのシリーズ復帰の初戦ということで、個人的にも期待していたのですが、エンジントラブルで公式予選に出走ることができず、出鼻をくじかれてしまいました。嫌な雰囲気もありましたが、無事にチームの皆が頑張ってくれたおかげで決勝を走ることができました。レースで履いた硬めのタイヤでの無交換作戦がうまくいけばもう少し

上位にいけるかとも思いましたが、無交換でのフルプッシュは厳しかったようですね。ただ予選で上に入れていれば、ドライバーの実力を考えても上位フィニッシュできる感触はありました。次戦はさらにたくさんの応援があると思いますので、良いレースをできるようにしたいですね。最低限入賞、そして表彰台を目指していきたいと思います。



### Director : Kazuhiro SASAKI

ひさびさの SUPER GT でのレースウイークでしたが、やはり面白いレースでしたね。個人的には週末を楽しく過ごすことができました。ただ結果的に今週末野開幕戦は公式予選で走れなかったことがすべてとなってしまいましたね。レースでは最後尾からの追いつけとなったことで、タイヤ無交換作戦にチャレンジしましたが、ふたりのドライ

バーが頑張ってくれたものの、最後にタイヤがバーストしてしまったので結果には繋がりませんでした。とはいえ、自分としてはそういったチャレンジは大好きですので(笑)。今後もそういうトライは続けていきたいです。今回得られたことをしっかりと繋げて、まずは予選をしっかりと走れるようにしたいと思います。



### Supervisor : Tetsuya TANAKA

D'station Racing としても初めての SUPER GT でのレースウイークとなりましたが、予選日にトラブルが起きてしまった状況のなか、チームスタッフのみんなが懸命に頑張ってくれて、その努力が繋がって決勝レースに出走することができました。レギュレーションもあってピットスタートにはなりませんが、その分トライすることもできま

したと思います。最後はタイヤバーストもありましたが、チームとしても全力で戦うことができたと思いますし、次に繋がるレースとなったのではないのでしょうか。しっかりと今回起きたことを次のレースまでに分析して行って、第2戦の富士では良い結果が残せるように、チーム一丸となって頑張っていきたいと思います。



### Driver : Tomonobu FUJII

ひさびさの SUPER GT でのレースとなりましたが、エンジントラブルもあり、最後尾スタートとなってしまいました。レースでは序盤順位を上げることができたものの、トラフィックのなかストレートスピードの不利益もあり、思うように順位を上げることができませんでした。今回、ピットスタートだったこともあり、本来使用を予定していたも

のとは違うタイヤで無交換作戦を採りましたが、状況のなかではタイヤは良かったと思っています。本来、公式練習の感触ではもっと前からスタートできる感じはあったので、やはり予選で前に行かなければ我々のクルマの性格から厳しいと感じました。次戦富士では、なるべく前からスタートできるように頑張っていきたいと思います。



### Driver : Marco Lorentz Sørensen

自分にとっても初めての SUPER GT のレースウイークで、すごく楽しみにしていたし、好結果を期待していたんだけど、この週末は思わぬ結果になってしまったね。残念な気持ちでいっぱいだよ。でも、すでに自分の気持ちは次の富士でのレースに向かってる。まだまだ D'station Racing としても改良すべきところは多いし、自分として

もまだ学ぶべきことは多いよね。とはいえ、この開幕戦ではたくさんのごちそうをいただいたと思っているし、この成長曲線をさらに加速させることができるという手ごたえも得ることができた。この開幕戦は少し運に恵まれなかったけれど、次の富士ではチャンピオンシップを考えても良い結果に繋がれるようにしなければと思っているよ。

